

観光英語（５）：重要文化財の天守を有する宇和島城、伊予松山城、松江城の案内板の英語

福島 一人

Tourism English (5) : The English Found on Signs in the Uwajima, Iyo Matsuyama, and Matsue Castle Complexes Containing the Castle Towers [Keeps, Donjons] Designated Important Cultural Properties [Assets] by The Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology

Kazundo Fukushima

Abstract

Of the English on signs found in the eight castle complexes containing castle towers [keeps, donjons] designated important cultural properties, the English in the Bicchu Matsuyama, Marugame, Kouchi, Hiroasaki, and Maruoka castles was examined, and was added actively if there were no English signs or explanations in Fukushima (2012. 7) (2013. 1).

This paper will examine the English signs in the Uwajima, Iyo Matsuyama, and Matsue castles. It will also add English actively if there are no English signs or explanations.

It will be shown that in the Iyo Matsuyama and Matsue castles there are more English signs and explanations than in the other six castles including the Uwajima castle mentioned in this paper, even if considering the scale of the castles concerned.

This paper also follows the classification of the signs in Fukushima (2012.7) (2013.1).

1. はじめに

2020年に東京でのオリンピック開催が決定し、さらなる外国人観光客の増加が見込まれ、日本の名所・旧跡においては、特に英語案内板の質的、量的充実が望まれるようになっている。

本稿は、福島（2012.7）、（2013.1）に引き続き、事例報告として、日本の名所・旧跡に数えられる、重要文化財に指定された天守を有する宇和島城、伊予松山城、松江城の案内板に検討を加える。

まず、ごく一般的な Wikipedia の記述を概観し、検討を加える。一般的な城郭の事物の用語にも触れる。当該城郭の規模も考慮し、全体の記述量から一般の関心度や集客数が推測されるであろう。

次に、現地の各城郭案内板について検討を加える。案内板の数は Wikipedia の記述量と同様、一般の関心度や集客数とある程度平行すると推測されるであろう。英語案内板については、文法的誤りの有無、併記されている日本語の案内板との量的、意味的矛盾の有無を検討する。英語案内板が存在しない場合、積極的に加えることを試みる。案内板は、一般的なもの、城郭の一般的なもの、当該城郭に特有なものに分類する。

本稿で挙げる重要文化財天守を有する伊予松山城と松江城においては、城郭の規模を考慮しても、

福島（2012.7）（2013.1）で報告した4城、そして本稿の宇和島城と比較しても英語案内板の数が多いことが証明される。

原稿枚数を考慮して、本稿では省略した案内板もある。読者ご自身で検討いただきたい。

本稿においても、（2012.7）“Abstract”中の「備中松山城」や「高知城」の如く、固有名詞などの英文字表記は、平仮名化したものをローマ字表記する。城郭の事物を表す用語、また、説明文の文体などは可能な限り現地の案内板のものに平行させることを心がける。

尚、本稿で使用している画像は Wikipedia からの引用文に挿入したのも含めすべて、本稿執筆者が現地で撮影したものである 1)。案内板の画像の文字が判読困難な場合が存在する。興味をもたれたものについては、読者ご自身が現地でご確認いただきたい。

現地の英語案内板の記述の加筆・修正、及び、存在しない英語案内板の提案などについては David Martin 氏 2) のチェックを受けた。

2.Wikipedia における記述

Wikipedia における、城郭の位置、城郭特有な英語についての記述の有無を確認する。

2.1 宇和島城



Uwajima Castle (宇 和 島 城 *uwajimajō* ?) is a *hirayamashiro* ([Japanese castle](#) on a hill on a plain) in [Uwajima](#), [Ehime](#), [Japan](#). An alternate name for this castle is Tsurushima-jo. This castle is well known as one of the twelve Japanese castles to still have an original [donjon](#) built in the [Edo Period](#). This castle was constructed by [Tōdō Takatora](#), a [Daimyō](#), in 1596 after being given a small fiefdom by [Toyotomi Hideyoshi](#) in 1595.^[1] This castle experienced major repairs and expansion by [Date Munetoshi](#) in 1671.

Uwajima castle has an [Important Cultural Property](#) selected by Japanese government:

- ・ Tenshukaku (Donjon Tower)
(2013. 5. 28 参照)

福島（2013.1）の丸岡城と共に、他の重要文化財天守を有する6城郭と比較して Wikipedia の記述量が少ない。重要文化財でありながら一般の関心度は低い、と言えよう。

概略、宇和島城は愛媛県宇和島市に位置する平山城で、江戸時代に建設された天守を有する12の城の一つである 3)。藤堂高虎が豊臣秀吉から与えられた所領に最初に建設



し、1671年に伊達宗利が大改修を加え、天守は重要文化財に指定されている、としている。

「天守」を“*tenshukaku*”、“*donjon tower*”としている。「平山城」を“*hiryamashiro*”とし、“*castle on a hill on a plain*”と説明している。

天守（1枚目の画像）は宗利による大改修の結果のもので、唐破風の天主玄関である入り口が広く、開放的で、「泰平の世の城」と呼ぶにふさわしい。天主には、狭間や石落しは存在しない。城までの石段や石垣は藤堂高虎によるものとされている。これらの記述も加えるべきであろう。

2.2 伊予松山城



Matsuyama Castle (松山城 *Matsuyama-jō*?) is a flatland-mountain castle that was built in 1603 on Mount Katsuyama, whose height is 132 meters, in [Matsuyama](#) city in [Ehime Prefecture](#) (the former [Iyo Province](#)). It is not to be confused with [Bitchū Matsuyama Castle](#).

This castle was originally built by [Kato Yoshiaki](#) in 1603. It had a large five-story *tenshu*, or keep, which was moved to Aizu Castle when Kato was transferred there in 1627. The next lord, Tadachika Gamoh, died in 1635, shortly after completing the *ninomaru*. After Tadachika,

Matsudaira Sadayuki became the new lord. He completed a new Castle Tower (*tenshu*) in 1642. His heirs continued to rule the castle after his death. However, on New Years Day, 1784, this Castle Tower (*tenshu*) was struck by lightning and burned down. The current Castle Tower (*tenshu*) was built between 1820 and 1854. The castle survived the Meiji restoration, but parts of it were destroyed by bombing from American forces during World War II. Since 1966, the city of Matsuyama has been working to restore the castle.

In Matsuyama, the Castle Tower (*tenshu*), or the main building of the castle can be seen from almost all places. The castle is accessible from the city central via [Matsuyamajo Ropeway](#), a [chairlift](#), or on foot.



(2013.5.28 参照)

概略、松山城（伊予松山城）は、現在の松山市、海拔132mの勝山に1603年に建設された平山城であり、備中松山城と混同するべきではない。元の5階の天守を有する城は加藤嘉明により建設されたが、嘉明が会津へ国替えになった後、蒲生忠知が引き継ぎ、その後明治維新まで松平氏が治める。1784年落雷により天守は焼失し、現在存在する天守は1820年から1850年にかけて建設されたもの、としている。現存天守を有する城郭では、唯一ロープウェイやリフトが整備されていることを強調したいためか、そのことが記述されている。記述量が多く、一般の関心度は高いと思われる。

「天守」を“*keep*”、“*tenshu*”、“*Tenshukaku*”とし、“*main building of the castle*”と説明している。「二

の丸」を“*ninomaru*”、「平山城」の「平山」を“*flatland-mountain*”としている。

第2パラグラフ第2文の“... which was moved to Aizu Castle ...”は「松山城天守が会津城に移築された」となるが、そのような事実は存在しない。恐らく彦根城と混同したのであろう。彦根城天守は、大津城天守の上部を移築したものである。四国で第一の規模を誇る城郭であること、重要文化財に指定されていることの記述が存在しないことは問題である。また、本丸の本壇の石垣（2枚目の画像参照）の石垣が「野面積み」、「打ち込みはぎ」、「切込みはぎ」からなっていることは、全国的にも珍しいことなので記述するべきであろう。

2.3 松江城



Matsue Castle (松江城 *Matsue-jō*?) is a [feudal](#) castle in [Matsue](#) in [Shimane prefecture, Japan](#). Nicknamed the "black castle" or "[plover](#) castle"....The construction of Matsue Castle began in 1607 and finished in 1611, under the local lord [Horio Yoshiharu](#). In 1638, the fief and castle passed to the Matsudaira clan, a junior branch of the ruling [Tokugawa](#) clan. Most Japanese castles have been damaged or destroyed by war, earthquakes, or other causes. (略) Yet only some of the walls and the [keep](#) exist today.

Of the 12 castles remaining in Japan, this is the only one remaining in the Sanin region. This castle is the second largest, the third tallest (30m) and the sixth oldest amongst castles. It was built over a period of 5 years by the daimyo of the Izumo region, Yoshiharu Horio, and was completed in 1622.

After reigns of Tadaharu Horio and Tadataka Kyogoku, Naomasa Matsudaira, a grandson of Ieyasu Tokugawa, became Lord of the castle, after being transferred from Matsumoto in Shinshu province, and thus began a reign that lasted 10 generations of the Matsudaira clan over a period of 234 years.



In 1875, all of the buildings within the castle were destroyed, with the exception of the castle tower itself, which was allowed to remain due to pressure from interest groups. (略)
(2013.9.20 参照)

概略、現存 12 城郭のうち唯一山陰地方に存在する松江城は、「烏城」とも「千鳥城」とも呼ばれ、島根県松江市に位置する。松江城は 5 年の歳月をかけて、1611 年に堀尾吉晴により建設され、堀尾忠晴の死後、京極忠高が引き継ぎ、1636 年に松平直政が引き継ぎ、以後代々松平氏が治める。天守？は現存するものでは、2 番目に大きく、3 番目の丈で、6 番目に古い、としている。記述量が多く、一般の関心度は高いと思われる。

「天守」を“keep”、“castle tower”としている。城郭の部位を表すものはこれのみである。

第2パラグラフ第2文の“This castle”の“castle”について、松江城の天守が現存天守で3番目の高さであることは周知のことであるので、「天守」の意味と思われる。“This keep”とするべきであろう。しかし、それならば、天守の規模は姫路城や松本城のほうが大きいので“the second largest”とするのは疑問である。松江城の完成年を第1パラグラフでは1611年とし、第2パラグラフでは1622年とし、矛盾している。1611年に統一するべきである。

堀尾吉晴が隠居のための城として建設したにも関わらず、防御性にすぐれていること、鯨（しゃち）が現存する天守のものうちでは最大級であること（1枚目の画像参照）、天守内部の柱が寄せ木造であること（2枚目の画像参照）などは周知の事実である。これらについても記述するべきであろう。

3. 各城の案内板

各城の案内板を、「一般的な案内板」、「城郭の一般的事物の案内板」、「当該城郭特有な事物の案内板」に分類し、英語案内板が存在しない場合、付け加えながら、検討を加える。城郭の構成や沿革などについては「当該城郭特有な事物の案内板」とした。

3.1 宇和島城

四国愛媛県の西の端、宇和島湾に存在し、「天然の要害」とも言える山々に囲まれており、交通が不便である。さらに、現存する城郭の面積が狭く、案内板の数は少ない。日本語表記と並列して明らかに奇妙な英語表記が存在する案内板が見られた。

3.1.1 一般的な案内板

1は城郭の二の丸まで続く石段であるが、でこぼこで足をくじく可能性がある。「足元注意」「Watch Your Step」を設けるべきである。尚、入り口付近に、何本かの杖と「杖をお使いください」という旨の日本語案内板が存在したが、“Walking Sticks Available”を併記するべきである。2の石垣も1



3



と同様、藤堂高虎によるものとされている。3.1.2で述べるべきとも思われるが、2の撮影場所付近に、「石段 石垣」“Stone Steps Stone Walls They are said to have been constructed by Toudou Takatora”を設けるべきであろう。「石垣に手をふれないで」“No Touching the Stone Walls”を設けるべきである。3は天守内部の階段で、他の城郭と同様、急傾斜であり上の階との間隔が狭い。「足元注意 頭上注意」“Watch Your Step Watch Your Head”を設けるべきである。さらに、福島（2012.7）で挙げた備中松山城と同様、天守内部に、「禁煙」「落書禁止」「飲食禁止」“No Smoking” “No Scribbling” “No Eating or Drinking”などの日英語の案内板が存在しない。せめて、天守の入り口だけにでも設けるべきである。2の石段・石垣のあたりは緑が多い。ここにも「禁煙」“No Smoking”を設けるべきである。4は石段の手前、城郭入り口（桑折長屋門）前に見られた日本語案内板であるが、4のみでは足りないと思われる。

尚、現存12天守の内部には、トイレは存在しない。天守に一番近くのトイレには、「これより先トイレはありません」“There are no restrooms beyond this point”を設けるべきである。

さて、4に対応する英語の記述は存在しない。

2枚の日本語案内板の内容をまとめ、次の英語案内板を併設することを提案する。6に合わせて「天守」を「Donjon」とする。

4



Notice

Operating Hours

Gate Opens : 6:00 a.m.

Gate Closes : 6:30 p.m. (Apr. 1 to Sept. 30)

5:00 p.m. (Oct. 1 to Mar. 31)

Donjon : from 9:00 a.m. to 4:00 p.m.

Folklore Museum (Closed day on Monday) : from 9:00 a.m. to 4:00 p.m.

No Entering beyond the Fences along the Passage

No Collecting Wild Plants or Animals

No Flammable Objects

No Smoking except in the Designated Areas

No Scribbling

No Pets

「…土石を移動掘取などしないこと。」は不要と思われる。

5



5は天守玄関に存在したが、これに対応する英語の記述は存在しない。日本語案内板の表題は、「宇和島城天守（国指定重要文化財）観覧のご案内」とするべきである。次の英語案内板を併設することを提案する。

Information for Entering the Uwajima Catstle Donjon
(Nationally Designated Important Cultural Property)

Operating Hours : from 9:00 a.m. to 5:00 p.m. (open throughout the year)

Admission Fee

	Adults	Children (Elementary & Junior High School Students)
Individuals	200 yen	100 yen
Discount		
Seniors (65 or older)	100 yen	
*Please show your driver' s license, etc.		
Handicapped Persons		50 yen
*Please show documentation		
Coupon : Shikoku Tour Coupon etc.		
Groups (20 or more persons)	160 yen	80 yen
※ per person		

* Discounts cannot be used together

6



6は1のでこぼこの石段に入る直前に存在した。天守に2方向から行けることを表し、観光客に親切である。矢印が存在するので、「天守」のみで足りるであろう。それに合わせて、「DONJON」とし、「(via Idomaru Quarter)」、「(via Children Park)」を加えるべきである。

3.1.2 城郭の一般的事物の案内板

7



8



9



7は正面から見た宇和島城天守である。3層“three-roof”3階“three-story”で、1層、2層には千鳥破風“plover gable”、3層には唐破風“Chinese gable”が設けられている。4) 1階の入り口は、唐破風の明らかに「玄関」を思わせるもので、大きく開放的で、他の現存天守には類を見ない。徳川時代に入り建設され、「泰平」の時代を表すもの、とされている5)。8は玄関の唐破風を内部から見上げたものである。9は横から見た天守であるが、1層には千鳥破風（plover gable）、2層には唐破風（Chinese gable）が設けられている。見る位置によって天守の外観が極端に異なる例は、福島（2012.7）の「弘前城」を参照願いたい。また、これも他の現存天守には類を見ないことであるが、7、9の外観から見ても、14、15などの内側から見ても、宇和島城天守には「石落とし」“stone dropping hole”や「狭間（さま）」“porthole”が存在しない。防衛的工夫“defensive device”は格子窓“lattice window”のみである。このことから「泰平の時代の城」と言えよう。

10



11



櫓（宇和島城では「矢倉」としている。）は、復元したものでさえ存在しない。「矢倉跡」のみである。10の「鉄砲矢倉跡」、11の「櫛形門矢倉跡」などである。それぞれ、“The former site of …”としているが、これらは平行する日本語表記とは意味が異なる。英語表記は、「以前の…跡」を意味し、現在は別の場所に「…跡」が存在することになる。12の「三の門跡」についても同様で、明らかに、「奇妙な英語表記」と言える。それぞれ、単に、“The site of …”とするべきである。また、全体の英語表記は“The site of the

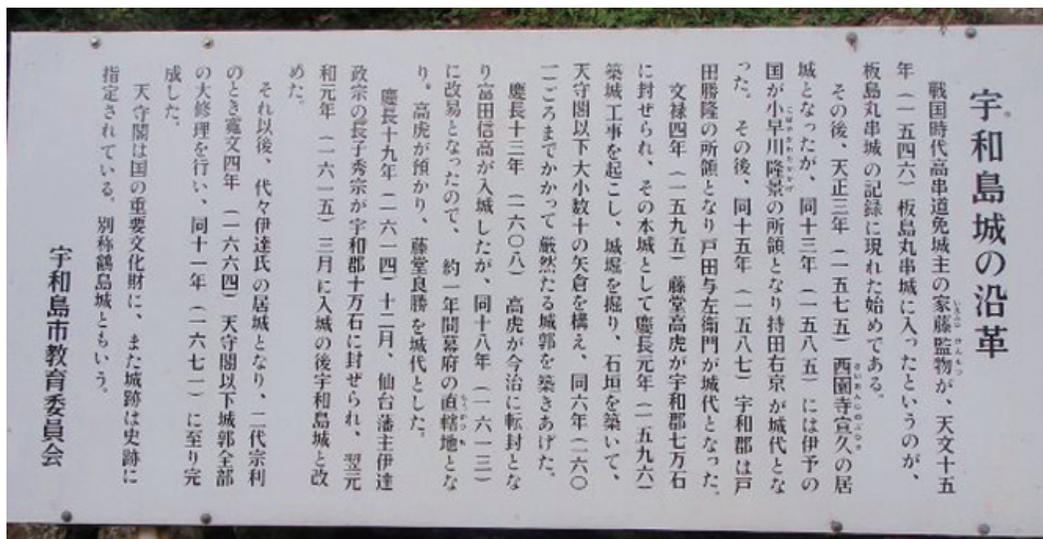
12



Teppou-yagura (gun turrets)”, “The site of the Kushi-mon-yagura (comb-shaped gate turrets)”, “The site of the San-no-mon (third gate)” とするべきであろう。

3.1.3 当該城郭特有な事物の案内板

13



13は宇和島城入り口の門（桑折長屋門）を入ったところに存在する日本語案内板である。平行する英語案内板は存在しない。次の英語案内板を併設することを提案する。日本語案内板の第二段落までは日本人にさえ知名度の低い人物についての記述である。従ってその部分は省略し、「板島丸串城」の名称は含めて英語訳する。

The History of Uwajima Castle

In 1595 Toudou Takatora was transferred to Uwa county worth 70,000 *koku**, and began work on his main castle 1596. He dug castle moats, built stone walls, and tens of turrets including the donjon. He completed the construction of the magnificent castle (Itajima Marugushi Castle) in 1601.

After Takatora was transferred to Imabari (present Kagawa Prefecture) in 1608, Tomita Nobutaka entered the castle , but he had his fiefdom forfeited by the Tokugawa Shogunate in 1613. After a year of the Tokugawa Shogunate’ s direct control Takatora was entrusted with the castle, and made Toudou Yoshikatsu, his son, rule the castle.

In December, 1614 Date Hidemune, the first-born son of Date Masanune (the lord of the Sendai clan) became the lord of the Uwa County worth 100,000 *koku*. He entered the castle in March, 1615, and changed its name for Uwajima Castle.

Since then his descendants inhabited the castle until the Meiji Restoration. Date Munetoshi, the son of Hidemune, began the whole repair of the castle including the donjon, and completed the work in 1671.

福島 一人：観光英語（5）：重要文化財の天守を有する宇和島城、伊予松山城、松江城の案内板の英語

The donjon is designated an important cultural property, and the site of the castle a historical site by the Japanese government.

*A *koku* is a quantity of rice, enough to feed one person for one year, about 180 liters of rice.

Uwajima City Board of Education

14



14は現存天守では他に類を見ない、四方を障子で囲まれた部屋を外側から見たもの、15は内側から見たものである。案内板が全く存在しない。次の日本語と英語の案内板を設置することを提案する。

15



障子の間

この障子に囲まれた部屋は、天守一階と二階にあり、他の現存天守には類をみないものです。

The Room of the Paper Sliding Doors

On each floor of the first and second stories of the donjon, there is a room with paper sliding doors all around. It is a characteristic of the Uwajima Castle.

この部屋の存在も、泰平の時代を象徴すると言えよう。

16



17



16、17は井戸丸の井戸とその日本語案内板である。次の英語案内板を併設することを提案する。

The Well of Uwajima Castle

This well was regarded as the most important of the three wells that now exist in Shiroyama hill. This area was once called the *Ido-maru* square and had the *Ido-maru* gate and the *Ido-maru* turret to prepare for the war.

Diameter : 2.4 meters

Perimeter : 8.5 meters

Depth : about 11 meters

This area is situated halfway up the valley on the north side of Shiroyama hill, on the uphill road from the third citadel. This well is one of the few remaining relics of the original Uwajima Castle in Shiroyama hill.

Uwajima City Board of Education

3.2 伊予松山城

愛媛県北部に位置する。天守をはじめとして本壇においてだけでも13もの重要文化財を有し、またその他の歴史的価値を有するものが多く存在し、それらほとんど全てに日本語及び英語の案内板が設けられている。また、特に天守内のすべての展示にも日本語及び英語説明がなされている。観光客には親切過ぎるほど親切、と言える。

3.2.1 一般的な案内板

1



2



1、2は「禁煙」を表す案内板であるが、「天守閣」と共通のものである。本丸本壇の入り口に存在した。天守（「天守」と言うのがふつう。）は連立複合式天守であるので、延焼しやすい。火気には細心の注意が必要である。独立させて作成し、ケーブルカーやチェアリフトの到着点の付近に設置するべきである。本城郭に存在しない「火気厳禁」「No Flammable Objects」も併せて設置するべきである。また、1,2については、「これより城内は…」の内容を加え、「No Smoking beyond this point」とするべきであろう。

3



4



現存天守内にトイレは存在しないので、3、4の案内板は重要である。しかし、3については、「お手洗いは」は“Restrooms”、「天守閣にお手洗いはありません」は“there are no restrooms in the castle tower”

5



6



とするべきと思われる。4の「天守閣にはトイレはありません」も同様に“… in the castle tower”とするべきである。“castle”のみでは城郭全体の意味になってしまう。「これより先は飲食禁止」には“No Eating or Drinking beyond this point”を加えるべきである。

5の「あぶないのでのぼらないでください。」には“For your safety do not climb”、6の「石垣を登らないでください」には“Do not climb the stone wall”を加えるべきであろう。6の“CASTLE”は“CASTLE TOWER”とするべきである。

7



「立入禁止」“KEEP OUT”の案内板は7のように、いろいろな場所で見られる。関係者専用の空間が天守内部に存在しないため、“STAFF ONLY”という案内板は見られない。

どの現存天守でも、階段は急傾斜であり、また、階段と上の階の床との距離は近い。足を滑らしたり、頭をぶつける可能性がある。福島(2013.1)では、日本語の注意書きに平行させて“NOTICE We cannot be held responsible for any accidents that may happen to visitors.”という英語説明を加えたが、本城郭においても提案したい。

8



9



10



11



どの現存天守においても、防衛上の理由から、故意に階段を急傾斜にし、かつ、上の階の床との距離を少なくしている。8は「頭上注意」“WATCH YOUR HEAD”で、9は「足元・頭上注意」“Please watch your step and your head.”と2つの注意事項を一括させている。それぞれを分け、日本語にスタイルを一致させ、“WATCH YOUR STEP WATCH YOUR HEAD”とするべきであろう。8もこれに準じ、2つ挙げるべきと思われる。また、10で理解されるように、階段はかろうじて一人が通れるほど狭い。11は不鮮明な画像であるが、“Those going down have the right of way.”と記述されている。「下り優先」という日本語を平行させるべきである。

「順路」“Route”の案内板が、12のように屋外の、13のように屋内のいたるところに存在する。広大な城郭であるにも拘わらず、筆者は全く迷うことがなかった。同様に、14の「入り口」“ENTRANCE”や15の「出口」“EXIT”が確実に認識できるところに存在する。16の「迂回路」“Detour of castle road”も観光客にとって親切と思える。

12



13



14



15



16



17



18



19



20



現存天守を有する城郭としては唯一の、19のロープウェイ（Ropewayとするのが普通）や20のチェアリフト（Chair liftとするのが普通）の乗り場を表す案内板が、17や18のように、きちんと設置されていた。観光客の大多数が徒歩ではなく、これらを利用するので親切である。

勝山の麓のロープウェイ、チェアリフトの乗降口に存在したであろう、料金表“Admission Fee”を撮影し損なった。それゆえ、本稿では検討不能である。読者ご自身でご検討いただきたい。

3.2.2 城郭の一般的事物の案内板

21



21は現存天守の中では最新（江戸時代末期）のものと言われている伊予松山城の（大）天守である。連立複合式天守の形態を取り、筋鉄門（すじがねもん）で小天守、内門で玄21関多聞櫓、玄関が接続しており、本壇上に位置する。この形態は現存天守では伊予松山城が唯一のものである。どこかで火の手が上がれば延焼しやすく、3.2.1で述べたように火気には十分過ぎるほどの注意を要する。

さて、本壇上の各構造物について、本来は「当該城郭特有

22



なもの」で検討するべきであろうが、「伊予松山城」においては本項目の中で一括して検討する。本壇上の天守広場を囲む構造物が連立複合式天守の構成素と考えられることによる。22の日本語案内板の真下には次の英語案内板が取り付けられている。

TENSHUKAKU (Main Castle Tower)

Important Cultural Property

This structure had been originally a five-story building, later it was rebuilt as three-story in 1642.

It was destroyed by lightning in 1784 and the current building here was restored in 1854.

This tower was never used as a residence of the lord.

第1文は、「…層…階」を明確にし、“…originally a five-roof and five-story building…was rebuilt as a three-roof and three-story ….” とするべきであろう。連立複合式天守の構成素であるので、日本語案内板の表題は、単に「天守閣」より「大天守閣」、さらに、一般的名称の「天守」、「大天守」とするべきである。英語の表題も“*Dai-tenshu*”とするべきである。「加藤嘉明の創建」、「松平定行の改築」が英語案内板には存在しない。“This structure had originally been built as a five-roof and five-story tower by Katou Yoshiaki, later it was rebuilt as a three-roof and three-story one by Matsudaira Sadayuki in 1642.” とするほうが良いと思われる。「五層」、「三層」は、“five-roof”, “three-roof” とするべきである。また、織田信長以外領主が天守に居住した例は少ないし、日本語案内板にも記述が存在しないので、第3文は削除してよいであろう。

23



23は大天守から筋鉄門（すじがねもん）によって通じる小天守であり、24はその案内板である。大天守の案内板と同様、他の本壇上の主要な構造物にも、日本語案内板と英語案内板が併設されている。

日本語、英語の表題は、大天守のものに合わせて、「小天守」、「Shou-tenshu (Small Castle Tower)” とするべきである。現地の英語案内板は以下のごとくである。

SHOTENSHUKAKU

This structure is the second most important turret after TENSHUKAKU (Main Castle Tower) .

SHOTENSHUKAKU is in a good location to defend both the front and rear sides of the Castle.

It was destroyed by fire, after being struck by lightning in 1784 and rebuilt in 1968.

「天守も櫓（turret）の一つ」、としている点で日本語、英語の案内板共に興味深い。英語案内板については、「慌てて作成した」という印象を否めない。以下の如くすることを提案する。

24



Shou-tenshu (Small Castle Tower)

This two-roof, two-story structure is the second most important turret after *Dai-tenshu* (Main Castle Tower) .

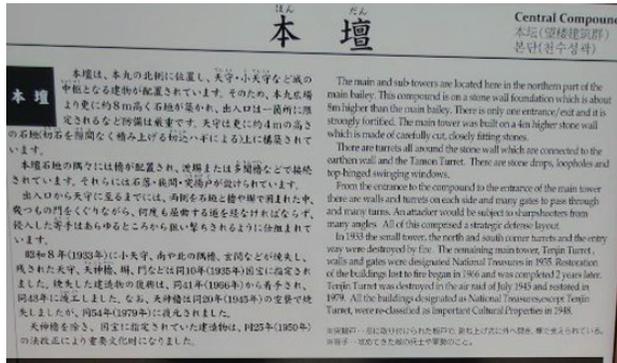
It is situated in a good location for defending both the front and rear sides of the *Hondan* (Central Compound) .

After being destroyed by lightning together with the main castle tower in 1784, it was restored in 1854. Again burnt down by an arson in 1933, the present small tower was restored in 1968.

25



26



25 は本丸内本壇上の構造物配置図である。現在重要文化財に指定されている 13 の構造物は紫色で描かれている。黒色の構造物は 1933 年の放火などにより焼失し、1968 年に復元されたものである。

26 は 25 の「本壇配置図」とは独立させ、さらに配置図を記載して設置されている「本壇」の説明部分である。25,26 共に、記載されている図は一般の地図の如く、上を北、下を南とすることを提案する。25 の右には本壇の日本語及び英語説明と、大天守を除く 12 の重要文化財に指定されている構造物の簡単な日本語説明が存在する。

26 の本壇についての説明は 25 のものより詳しい。26 の英語説明は以下の通りである。アンダーラインは筆者によるものである。

The main and sub-towers are located here in the northern part of the main bailey. This compound is on a stone wall foundation which is about 8m higher than the main bailey. There is only one entrance/exit it is strongly fortified. The main tower was built on a 4m higher stone wall which is made of carefully cut, closely fitting stones.

There are turrets all around the stone wall which are connected to the eastern wall and the Tamon Turret. There are stone drops, loopholes and top-hinged swinging windows.

From the entrance to the compound to the entrance of the main tower there are walls and turrets on either side and many gates to pass through and many turns. An attacker would be subject to sharpshooters from many angles. All of this comprised a strategic defense layout.

In 1933 the small tower, the north and south corner turrets and the entry way were destroyed by fire. The remaining main tower, Tenjin Turret, walls and gates were designated National Treasures in 1935. Restoration of the buildings lost to fire began in 1966 and was completed 2 years later. Tenjin Turret was destroyed in the air raid of July 1945 and restored in 1979. All the buildings designated as National Treasures, except Tenjin

Turret, were re-classified as Important Cultural Properties in 1948.

総じて、練られた文章と言えよう。文法的誤りは存在しない。日本語説明の内容とほぼ一致している。

第1段落最初の文の“The main and sub-towers…”は“The main and connected sub-towers…”としたほうが連立複合式天守という特徴が明確に表せるであろう。第1段落最後の文と第2段落最初の文の“stone wall”は“stone platform”としたほうが本壇の「壇」の意味が明確に表せるであろう。第2段落最初の文の“Tamon Turret”は“Tamon Yagura (Tamon Turret)”と、最終段落の“Tenjin Turret”は“Tenjin Yagura (Tenjin Turret)”としたほうが丁寧と思われる。第2段落2番目の文の“… and top-hinged swinging windows.”は“…and overhang windows (top-hinged swinging windows).”と、第3段落2番目の文の“An attacker”は“Invading enemies”としたほうが分かりやすいと思われる。

第4段落最後の文の“in 1948”は日本語説明や事実と異なる。“in 1950”とするべきである。

さて、一般的な城郭の事物としての、「狭間（さま）」、「石落（いしおとし）」、「突揚戸（つきあげど）」などの日本語説明が25の下に存在する。“Sama (Loopholes) : devices through which defenders shoot arrows or fire guns at enemies”、“Ishiotoshi (Stone Drops) : devices for throwing stones on enemies who are scaling the stone wall”、“Tsukiage-do (Overhang Windows or Top-hinged Swinging Windows)”などの英語説明を26の英語説明を参考にして加えるべきであろう。なお、本城郭の他の案内板中では、鉄砲狭間を“loopholes for guns”と、矢狭間を“loopholes for shooting arrows”としている。これらも、“Teppou-sama”、“Ya-sama”として、“Sama”の下位に加えるべきであろう。

27



28



29



30



31



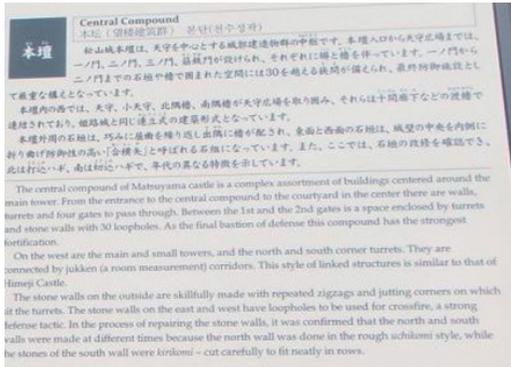
27は内側から見た、28は外側から見た「狭間」である。28の中央部の突き出た部分は「石落」、29は外部の壁にある、内側から見た「石落」である。

30は大天守の内側から見た、31は外側から見た「突揚戸」である。

さて、32は25と共に、「本壇配置図」の中の本壇の説明である。

本壇上の西側には、天守広場を取り囲むように、(大)天守、小天守、北隅櫓（きたすみやぐら）、南隅櫓（みなすみやぐら）、そして、天守と北隅櫓を結ぶ内門と玄関多門櫓、小天守と南隅櫓を

32



結ぶ多門櫓、南隅櫓と北隅櫓を結ぶ十間廊下が存在する。これらが連立複合式天守を構成する、と記述されている。姫路城の場合、外観が一つに見えるので、「連結複合式天守」と思え、「姫路城と同じ…」という日本語説明には疑問が感じられる。また、小天守が存在する場合、単に「天守」とするより、「大天守」とするほうが良いと思われる。

英語説明は次の如くである。26の英語説明と同様、よく練られた文章と言えよう。文法的誤りは存在しない。日本語説明と内容はほぼ一致している。アンダーラインは筆者による。

The central compound of Matsuyama castle is a complex assortment of buildings centered around the main tower. From the entrance to the central compound to the courtyard in the center there are walls, turrets and four gates to pass through. Between the 1st and the 2nd gates is a space enclosed turrets and stone walls with 30 loopholes. As the final bastion of defense this compound has the strongest fortification.

On the west are the main and small towers and the north and the south corner turrets. They are connected by jukken (a room measurement) corridors. This style of linked structures is similar to that of Himeji Castle.

第1段落の“Matsuyama castle”は第2段落の“Himeji Castle”に合わせて、“Matsuyama Castle”としたほうが良いであろう。「…の入り口」「the entrance to…」と一般的には言われるが、この場合、“From…to…”の“to”と重複するので、“to the central compound”は“of the central compound”としたほうが良いであろう。“30 loopholes”は日本語説明の「30を越える」に合わせて“more than 30 loopholes”とするべきであろう。第2段落の“jukken (a room measurement) corridors”は“*Ju-kken* (Japanese unit of length : about 18.2 meters) *Rouka* (Hallway)”とすることを提案する。廊下は一つなので“Hallway”とするべきである。“similar to”は日本語説明に合わせれば、“the same as”とするべきところである。しかし、筆者は本城天守の建築様式は、大天守と小天守が一体化した外観を有する姫路城のものとは異なると思えるので、日本語・英語説明共に、この部分は削除することを提案する。

33



34



33は34の北隅櫓の案内板である。1854年に再建されたが、昭和8年の放火によって焼失した旨が日本語のものに記されている。併設されている英語案内板は次の通りである。日本語の内容が簡略化されている。アンダーラインは筆者による。

KITA-SUMI TURRET (North Corner Turret)

This structure is located in the northwest corner

It was designed to defend INUI-, NOHARA Turret and the area of the north side.

It was destroyed by arson in 1933 and restored in 1968.

表題については、“*Kita-sumi Yagura (North Corner Turret)* -” とし、説明文については、第1文にはピリオドを入れ、第2文は “It was designed to defend the *Inui-mon (Northwest Gate)* , the *Nohara Yagura (Nohara Turret)* and the area of the north side.” とすることを提案する。

35は36の南隅櫓の案内板であるが、北隅櫓と同じく、1854年に再建されたが昭和8年の放火によって焼失した旨が日本語のものに記されている。英語案内板は次の通りである。

日本語のものが簡略化されている。アンダーラインは筆者による。

35



36



MINAMI-SUMI-Turret (South Corner Turret

This structure is located in the southwest corner and designed to defend the area around INUI-Gate.

It was destroyed by arson in 1933 and restored in 1968 .

表題については “*Minami-sumi Yagura (South Corner Turret)*” とし、第1文は北隅櫓の提案に合わせて、“…and designed…” を独立させ “It was designed to defend the area around the *Inui-mon (Northwest Gate)* .” とすることを提案する。

37は、北隅櫓と南隅櫓を結ぶ38の十間廊下の案内板であるが、両者と同じく1854年に再建され、昭和8年の放火によって焼失した旨が日本語のものに記されている。併設されている英語のものは次の通りである。日本語の内容が簡略化されている。アンダーラインは筆者による。

37



38



JIKKEN-ROUKA (Hallway)

The length of the hallway is 10 ken or 69.85 ft. (ken means unit of length) . It connects the South Corner Turret and the North Corner Turret.

It was destroyed by arson in 1983 and restored in 1968.

表題については、日本語のものの振り仮名を「じゅっけんろうか」、それに合わせて英語のも

のも “Jukken Rouka (18.2-meter Hallway)” とし、第1文は “...is 10 ken or 18.2 meters (a ken is a Japanese unit of length).” とすることを提案する。

その他の本壇上の建造物にも、重要文化財であるなしに拘わらず、ほとんどすべてに日本語と英語の案内板が設置されていた。また、大天守内部の本城郭に関する説明のほとんどすべてにも英語説明が併記されている。一般観光客には親切すぎると思える程である。

39



39は本丸の案内板で日本語と英語説明が併記されている。図は、右を北、左を南、としているが、一般の地図の如く、上を北、下を南、とすることを提案する。本丸は南北約300m、東西約30-180mとしている。この部分、図の上を北、下を南と考えていると混乱する。図の方位に英語が記されていないので、米英国人は一層混乱する。また、「本丸はかなりの高さの石垣に囲まれている」と解釈可能なので、このままでは城下から大天守が見えることに疑問が感じられるであろう。本丸中の、大天守が存在する本壇はかなりの高さがあるので、大天守は城下から見えるのである。日本語及び英語の説明文中に「本壇中の大天守」、「the main tower on the platform with the Hondan (central compound)」加えることを提案する。

英語説明は次の通りである。26,32の英語説明文と同様、よく練られた文章と言えよう。文法的誤りは存在しない。日本語説明と内容は一致している。アンダーラインは筆者による。

表題は「本丸」“Main Bailey”としている。

The main bailey is the last bastion of defense of the castle and is surrounded by a 10m high stone wall. The length is about 300m from north to south and 30 ~ 180m from west to east putting it on a scale of the most prominent in the nation. The beautiful, concave vertical curve and the folding screen-style line of the high stone wall are special defense features. In the Edo Era (1603 ~ 1867) there was an earthen battlement on top with stone drops and loopholes. At strategic points there are turrets and walls and it is thought that from below the main tower would be seen surrounded by these fortifications.

On the north side of the main bailey is the complex of the main and subsidiary towers of the central compound and on the south is with the Ote Gate and at the front and on the north the Inui Gate is at the back. Near the Inui Gate are the Inui Turret and Nohara Turret still remain, the oldest building of the castle.

“...walls and it is thought that...”は幾分冗長に感じられる。“...walls which fortifications as seen from below would have been seen as completely as surrounding the main tower.”で足り、そうすることを提

案する。“Ote Gate”は“Oote Mon (Main Gate)”と、“Inui Gate”は“*Inui Mon (Northwest Gate)*”とすることを提案する。そして、“Inui Turret”は“*Inui Yagura (Northwest Turret)*”と、“Nohara Turret”は“*Nohara Yagura (Nohara Turret)*”とすることを提案する。

40



さて、「本丸が高さ 10m を越える石垣に囲まれている」という内容が 39 にも、3.2.3 の 45 にも存在するが、この内容には疑問を感じる。本丸にいる観光客の立ち位置より高い石垣が周囲に存在することになってしまう。説明文の誤りと言える。40 の宝島社編（2009）DVD の古い絵図からも理解できるが、「本丸は高さ 10m を越える石垣の上に存在する」という内容にするべきである。したがって、日本語説明を英作文した英語説明も、“The main bailey, which is located on the foundation along the perimeter of which there are stone walls over 10m high, is the last bastion of defense of the castle.”とすることを提案する。

枚数の都合上、本壇上だけにおいても、多門櫓、玄関多門など併設されている英語案内板を検討することが不能であった。次の機会に委ねたい。

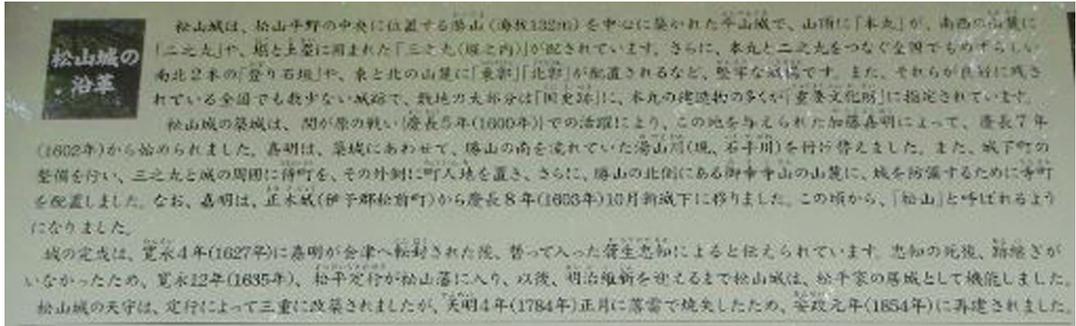
3.2.3 当該城郭特有な事物の案内板

41



41 はロープウェイやチェアーリフトを降りてすぐに見られる、日本語と英語説明が記されている案内板である。42 は日本語説明を拡大したものである。平山城である当該城郭の構成とその配置、すなわち、本丸、二の丸、三の丸、東郭（ひがしくるわ）、西郭（にしくるわ）などが説明され、そして、加藤嘉明（よしあき）の建設開始から明治維新まで、城郭の沿革について説明されている。最後に「明治時代より前に建設された現存天守のなかでもっとも新しいものと言えます。」を入れることを提案する。

平行する英語説明は次の通りである。若干の問題点が存在するが、日本語説明とほぼ平行している、と言えよう。アンダーラインは筆者による。



Matsuyama Castle is located in the center of the Matsuyama Plain on Katsuyama Hill (132m) and is a flat top mountain castle. The main bailey is on the hill top, while at the base of the hill to the southwest is the 2nd bailey, and the moat and earthworks enclose the 3rd bailey. Two nobori-ishigaki (ascending stone walls), which are very unusual in Japan, link the 2nd bailey to the main bailey. With the enclosures that that flanked the hill to the north and east, a solid and fortified castle complex was created. In addition, of the few castle structures in Japan that remain in good condition, a majority of those designated as national historic sites are the Important Cultural properties found in the main bailey.

Yoshiaki Kato was granted permission to use this site for Matsuyama Castle after fighting well in the battle of Sekigahara in 1600 and he began construction in 1602. Along with the castle construction, Kato also had the course of the Yuyama River (nowadays known as the Ishite River) rerouted. It used to flow where Ichi-ban-cho street is now. The altered route can be seen as a green belt bordering the south side of the city center.

In developing the castle town, the area around the third bailey and the castle was reserved for samurai while the artisans and merchants were put outside that area. The temples were gathered at the base of the hills to the north to serve as ‘protection’ of the castle. Kato moved from Masaki Castle (just south of present day Matsuyama) in October 1603. From that time the name ‘Matsuyama’ came to be used.

It is said that the building of the castle was completed by Tadachika Gamo after Kato Yoshiaki was transferred to Aizu in 1627. Gamo died without an heir, so in 1635 Sadayuki Matsudaira became the lord of Matsuyama domain. The Matsudaira clan continued to serve Matsuyama domain until 1868.

The main tower of Matsuyama Castle was rebuilt in three stories by Sadayuki Matsudaira, but in January 1784, it was struck by lightning and burned to the ground. It was rebuilt in 1854.

第1段落について、「平山城」は、「山城」「mountain-top castle」と区別して、「hill-top castle」とするべきであろう。原文のままでは、「山城」の一種になる。4行目の“nobori-ishigaki (ascending stone walls)”は、日本語の普通名詞であるので“*Nobori Ishigaki* (ascending stone walls)”とするべきであろう。6行目の“was created”は「建設された」の意味を明確にし“was constructed”とした方が良いでしょう。第1段落最後の文“In addition…in the main bailey.”は読みづらい。簡略化し、“In addition, these castle components are the few existing ones in Japan that remain in good condition. Most of them are designated as National Historic Sites, and in particular those in the main bailey as Important Cultural Properties.”とすることを提案する。第2段落冒頭の“Yoshiaki Kato”は、英語説明に外国人名は存在しないので、姓・名の順に英文字表記し、“Katou Yoshiaki”とすることを提案する。“Kato”と

すると、「かと」と読まれる可能性があるのです、これまでの筆者の綴り方に従って、“Katou”と表記する。“Ichi-ban-chou street”については、“Ichi-ban-chou (Ichi-ban-chou Street)”と表記する。第4、第5段落の“Tadachika Gamo”は“Gamou Tadachika”と、“Kato Yoshiaki”は“Katou Yoshiaki”と、“Gamo”は“Gamou”と、“Sadayuki Matsudaira”は“Matsudaira Sadayuki”とすることを提案する。尚、第5段落は、“So it is regarded as the last existing castle tower of those constructed before the Meiji era.”を加えて終わらせることを提案する。それに合わせて、日本語説明も、「従って、明治時代より前に建設された現存天守では一番新しいものです。」を加えることを提案する。

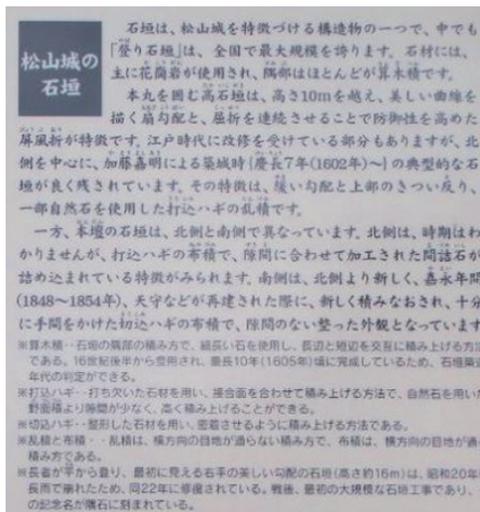
43



44



45



43 は本丸や本壇を「支えている」と言える石垣の案内板である。44 の撮影場所 45 の本丸の登り口に存在する。45 は 43 の日本語説明を拡大したものである。

案内板には、石の積み方が詳しく記述されている。他の明治時代より前に天守が建設された 11 城郭においては、案内板が存在するとしても、石の積み方は、「野面積み（のづらづみ）」、「打込（うちこみ）ハギ」、「切込（きりこみ）ハギ」である。伊予松山城においては、さらに、「算木積（さんぎづみ）」、「乱積（みだれづみ）」、「布積（ぬのづみ）」の名称と説明も見られる。

「本丸を囲む高石垣は、高さ 10m を越え…」という記述は、39 の本丸の案内板と同様、観光客に「自分の立ち位置より高く石垣が存在する」と誤解させてしまう。「本丸の周囲の、支えるように存在する」という内容にするべきである。

平行する英語説明は次の通りである。よく練られた英文と言える。アンダーラインは筆者による。

The stone walls of Matsuyama Castle are one of its features and the Nobori-Ishigaki (ascending stone walls) are the most distinctive, being examples of the few and the grandest in scale of such walls in Japan. The stones

are granite and the corner sections are almost all stabilized by wooden rocks.

The high stone wall which surrounds the main bailey is over 10 meters. The beautiful concave curve of the surface and the folding screen-style zigzag line, a defense feature, are characteristic. Although some sections were repaired during the Edo Era (1603 ~ 1867) , a great part of the wall, especially the northern section, remain from when Yoshiaki Kato began the castle construction in 1602. The gentle slope merging into a steep upper section and the random nature of the rough-cut stones are characteristic.

The stone walls on the north and south side of the main compound are different. It is not known when the north wall was made, but the stones are cut to fit wit with smaller stones stuffed into the spaces between. The south wall, which was made between 1848 and 1854 when the main tower was rebuilt, is newer than the north wall and great care was taken to cut the stones so they fit closely together.

第1段落の“Nobori-Ishigaki”は日本語であり、また、「下り石垣」のようなものは存在しないので、“*Nobori Ishigaki*”とすることを提案する。

第2段落の“Yoshiaki Kato”は、米（英）国人の名称が存在しないし、「か」と読まれる可能性があるがあるので、“Katou Yoshiaki”とすることを提案する。

第2段落の“The high stone…is over 10 meters.”は日本語説明と同様、観光客の立ち位置より石垣が高い、と解釈される可能性がある。“The high stone wall, which is piled up along the perimeter of the foundation of the main bailey, is over 10 meters tall.”とすることを提案する。

第2第3段落の“the random nature…”や“the stones are cut…”は、“the random nature of the rough cut-cut stones, which is called the *Uchikomi-hagi* (a way of piling up stones),”や“…into the spaces between, which can be called the improved *Uchikomi-hagi*”とすれば日本語説明中の※の「打込ハギ」の説明が、そして、“great care was taken to cut…”は“great care was taken to use the *Kirikomi-hagi*, or to pile up stones by cutting them so they fit closer together”とすれば「切込ハギ」が説明されるであろう。

46は他の現存11天守中には類を見ない床の間である。大天守最上階に存在する。次の日本語・英語説明の案内板を設置することを提案する。

46

床の間



床の間は、他の現存11天守の中には類を見ないものです。織田信長のように天守を住居として使用することを想定したと考えられます。

Tokonoma (Alcove)

This is a characteristic of Iyo Matsuyama Castle. Its existence shows that the castle tower was supposed to be used as a residence of the lord and his family like Oda Nobunaga's use of castle towers.

3.3 松江城

島根県東部、宍道湖近くに位置する。中規模であり、重要文化財の天守のみが現存する。案内板の数は適度と言える。天守や城郭の案内板上の説明は簡潔であり、かえって観光客に親切な印象を受けよう。

3.3.1 一般的な案内板

1



2



3



1は登城口手前の土産物屋の前に存在し、「天守閣」や「便所」などの方角を表す案内板である。天守は本城郭の見どころである。城郭の敷地が広いので親切と言える。

1では、「便所」とし、“Rest Room”としている。登城口付近に存在する2、発券所付近の3では、「お手洗い」とし、“toilet”を用いている。“toilet”は「便壺」のように直接的な意味に解釈されることが多い。また、(米)では“restroom”と1語で綴られることが一般的である。1は“Restrooms”と、2,3は““There are no restrooms beyond this point.”、“The restrooms are outside the gate in front of Matsue Shrine. (50m ahead)”とすることを提案する。

これまでも述べたが、現存天守のなかにはトイレは存在しない。最後の存在箇所にも、これらの案内板を設置することは必要である。

4



4は天守入り口に入った所に存在し、喫煙・飲酒、落書き、危険物などを禁止する案内板である。英語の記述は次の通りである。アンダーラインは筆者による。

Following Is Forbidden Inside of the Castle Tower

- ★ Smoking, Eating and Drinking
- ★ Scribbling and Staining Walls and Pillars etc.
- ★ Climbing to Windows or Dropping Something from Windows
- ★ Carrying Dangerous Articles
- ★ Any Action Which Interfere with Superintendence

「天守内では下記のことを禁止する」について、「下記のこと」は“The Following”、「天守内」は“inside the Castle Tower”とするべきである。「喫煙並びに飲食すること」は“Smoking, Eating or Drinking”とするべきである。「…窓から物を投下すること。」は“…Dropping things from Windows”

5



6



とすることを提案する。「…管理上支障があると認めたこと。」は“Any Action Which Interferes…”とすべきである。また、“NOTICE”という表題から始めるべきである。
5、6は天守に上がるために履物を脱ぐことについての案内板である。

5には STREET SHOES NOT ALLOWED NO DRINKING, EATING と記述されている。“SHOES”では「靴」と履物が限定されてしまう。「ゴム草履なら、建物を傷つけないから…」と考える外国人が存在するかも知れない。下の“NO…”のスタイルに合わせて“NO FOOTWEAR ALLOWED”とすることを提案する。「飲食禁止」は通例、日本語とは逆に、“NO EATING OR DRINKING”とすべきである。6には SHOES BOX Please remove your shoes before stepping upon the wooden platform. と記述されている。5の提案に合わせて、また、「スノコ」については、“duckboards”が一般的と思われるので、“FOOTWEAR BOX Please remove your footwear before stepping upon the duckboards.”とすることを提案する。

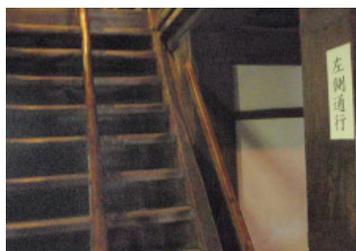
7、8の「左側通行」は、階段の上り口の目立つ位置に必ず存在する。それぞれに、“Keep Left”を併記させるべきである。筆者が降りるとき、筆者に向かって登ってくる外国人観光客を見かけた。

9、10の「順路」は多く存在し、日本人観光客には親切、と言える。外国人観光客のために“Route”も併記することを提案する。

7



8



9



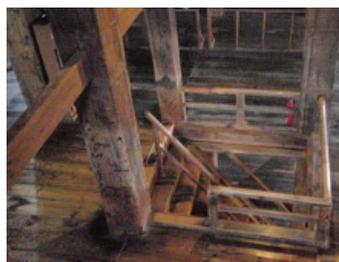
10



11



12



13



11 は天守最上階に存在する「禁煙」「飲食禁止」の案内板であるが、その内容は4の「登閣者心得」にも記述されている。重要文化財に指定されている建造物にとって、「禁煙」は重要と思われるが、入り口と天守最上階にしか存在しない。“No Smoking”も併記し、天守各階及び城郭の随所に設置するべきである。

他の現存天守にも共通するが、12、13のように、各階をむすぶ階段は急傾斜であり、階段と上の階との距離は短い。松江城には、「足元注意」「Watch Your Step」、「頭上注意」「Watch Your Head」が存在しない。これらを設置するべきであり、また、「手すりにおつかまり下さい」「Hold on to the Railing」を加えた方が良いかもしれない。

14、15 は発券所に存在する、松江城登閣料及び松江城下町との共通入場料の案内板である。「共通入場券」「UNIVERSAL PASS」についての案内板が15のように独立して設置されていることは、城郭周辺施設への誘致の意気込みの高さが感じられる。

14



14の、最初の段の日本語の表と対応する英語の表について、「個人」は“Individuals”、「団体 (30名様以上)」は“Groups (more than 30 persons)”としている。「(30名様以上)」は厳密な数を示すので、“(30 or more persons)”とするべきである。また、団体割引については、「*団体様1名につき」や“*per person”を加えることを提案する。

「大人」は“ADULTS”、「小人」は“CHILDREN”とし、「小人」の内容の「(小・中学生)」は表外に独立させ、“Children: Elementary and Junior High School”としている。これは、“... and Junior High School Students”とする方が良いであろう。

次の段の表については、「施設名」は“Name of facility”、「観覧時間」は“Opening Hours”、「受付時間」は「閉館時間」という内容で、“No Admittance”としている。「施設名」の「松江城 天守閣への登閣」は“Matsue castle Entry

15



into the castle tower”としている。“Matsue Castle”と“Castle”も大文字で始めた方が良いであろう。「観覧時間」の「4月1日～9月30日 8:30～18:30」は“April 1st～September 30th 8:30～18:30”とし、「10月1日～3月31日 8:30～17:00」は“October 1st～March 31th 8:30～17:00”としている。“…～March 31th”は、“…～March 31st”とするべきである。「受付時間」の“No admittance”について、上段は“After 18:00”と、下段は“After 16:30”としている。簡略化し、“No admittance”を“Last Admittance”として、上段を“18:00”と、下段を“16:30”とすることを提案する。「共通入場券」「UNIVERSAL PASS」について、「特典つき」には、“With Special Discounts”を、「(現金払いのみ)」には、“Cash Only”を併記するべきである。また、「松江城登閣料」「ADMISSION FEE」に合わせて、「大人」を“Adults”と、「小人」を“Children”と複数形にすることを提案する。

15は14とは独立して存在する「共通入場券」の案内板である。

14に合わせて、“Adults”、“Children”を使用することを提案する。14、15とも、「共通入場券」の「小人」は、「松江城登閣料」のものとは異なる。後者が正しいのならば、「小・中学生を含む」ではなく、「小・中学生」とし、“Children: Elementary and Junior High School Students”と統一するべきである。「<通常料金>」には、“Total Amount of 4 Sites Purchased Individually”を「<特別料金>」には、“Universal Pass”を加えることを提案する。また、「●所要時間 約2時間 1施設1回限り (3日間有効)」には、“Suggested Time: about two hours One-time admittance for each facility (Valid for three days)”、「●特典つき (他の観光施設の割引特典があります。)」には、“Privilege: Given discounts for other facilities”を加えることを提案する。「●払い戻しはできません」は“Sorry No Refunds”とすることを提案する。

16は天守入り口の階段の登り口に存在する。日本の観光地には珍しい英語の案内板である。日本語パンフレットが入手可能であるが、日本語のものには気づかなかった。“Japanese or English Language leaflets available on request”とし、「ご希望により日本語・英語版パンフレットをお渡しします。」を併記することを提案する。

16



3.3.2 城郭の一般的事物の案内板

17

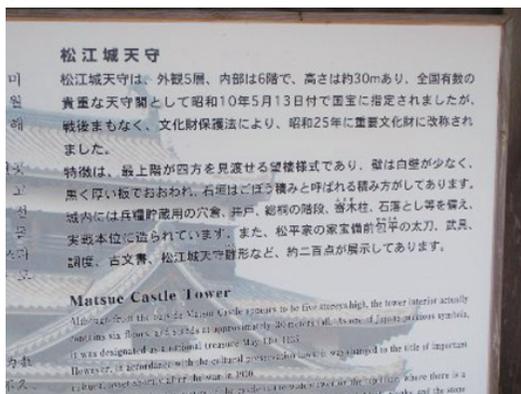


17は、正面中央に附櫓（つけやぐら）を取り付けた天守である。山陰地方唯一の現存天守であり、重要文化財に指定されている。18、19は、発券所下の石垣そばに存在する案内板の日本語説明と英語説明である。英語説明は次の通りである。アンダーラインは筆者による。

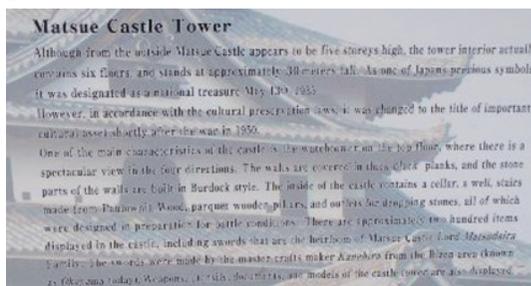
Matsue Castle Tower

Although from the outside Matsue Castle appears to be five storeys high, the tower interior actually contains six floors, and stands at approximately 30 meters tall. As one of Japans precious

18



19



symbols, it was designated as a national treasure May 13th 1935.

However, in accordance with the cultural preservation laws, it was changed to the title of important cultural asset shortly after the war in 1950.

One of the main characteristics of the castle is the watchtower on the top floor, where there is a spectacular view in the four directions. The walls are covered in thick black planks, and the stone parts of the walls are built in Burdock style. The inside of the castle contains a cellar, a well, stairs made from Paulownia Wood, parquet wooden pillars, and outlets for dropping stones, all of which were designed in preparation for battle conditions. There are approximately two hundred items displayed in including swords that are the heirloom of Matsue Castle Lord Matsudaira Family. The swords were made by the master craft Kanehira from the Bizen area (known as Okayama today) . Weapons, utensils, documents, and models of the castle tower are also displayed.

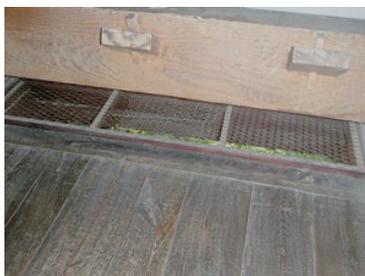
最初の段落、第1文と2文は、「城郭」と「天守」を明確に区別し、また、簡潔にし、“The castle tower is a five-roof building , although its interior contains six floors, and it is about 30 meters high. As one of Japan's precious castle towers, it was designated a National Treasure on May 13th , 1935.” とすることを提案する。「国宝」「a National Treasure」に合わせて冠詞を入れ、「重要文化財」は“an Important Cultural Asset” とするべきである。「天守の重要な特徴…」の意味であるので、「城郭」と区別し、“the castle tower” とするべきである。「四方を見渡せる…」は、“…in all four directions”の方が日本語説明を良く表せると思う。「黒く厚い板でおおわれ」は“…covered with thick black planks” とするべきである。「天守を支える石垣」の意味であるので、“the stone walls of the foundation of the tower” とするべきである。日本語説明も、単に「城内には…」を「天守正面の附櫓（つけやぐら）の内部には…」とするべきであるが、“The inside of the castle contains”を“The inside of the *Tsuke-yagura* (attached turret) attached to the front of the castle tower contains ” とするべきべきである。「桐の階段」は“stairs made of paulownia wood” とし、「寄木柱」は“*Yosegi-bashira* pillars (joint wooden pillars)” とし、「石落とし」は“*Ishiotoshi* (devices for dropping stones)” とすることを提案する。松平家の太刀などが展示されているのは天守内部であるので、“There are … items displayed in the castle ” の“the castle” は“the castle tower” とするべきである。「松平家の家宝は1点ではない、また、「松平家」は一般的に“the Matsudaira clan” とするので、“the heirloom

of Matsue Castle….”は“the heirlooms of the Matsudaira clan that ruled over the Matsue Castle.”とすることを提案する。

20



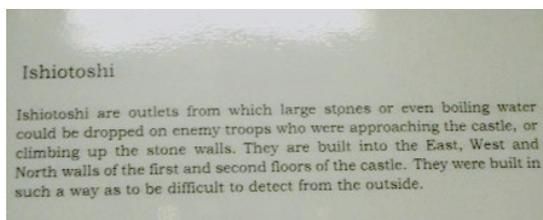
21



22



24



20 は外部から見た、21 は内部から見た「石落とし」である。但し、20 は「附櫓」のもので、21 の天守2階に存在するものは、2階の案内板にも記述されているが、筆者も外部からは気づかなかった。英語案内板は次の通りである。文法的な誤りは存在しない。アンダーラインは筆者による。

Ishiotoshi

Ishiotoshi are outlets from which large stone walls or even boiling water could be dropped on enemy troops who were approaching the castle, or climbing up the stone walls. They are built into the East, West and North walls of the first and second floors of the castle. They were built in such a way as to be difficult to detect from the outside

表題と第1文の“Ishiotoshi”は“Ishiotoshi”とし、表題には、“(stone drops)”を加えるべきである。日本語説明では「石垣に接近したりよじ登ってくる」としているのので、“approaching or climbing up the stone walls”とするべきである。元の文では「城郭に接近する」の意味になる。「東・西・北側」は小文字ではじめ、“the east, west, north”とするべきであろう。天守においては、「(天守) 一層と二層の屋根」は「一階と二階の屋根」とは異なることがある、また、天守についてであり、「一層と二層の屋根の間」であるので“between the first and the second roofs of the castle tower”とするべきであろう。攻撃に際して、意図的に「石落とし」を探すことはないのので、単に“to be seen”とすることを提案する。

24 は「狭間 (さま)」、25 は「突き上げ戸」と「格子窓」である。2枚共、天守2階内側から見た画像である。案内板は存在しない。日本語説明と平行させて、“Sama (Loophole)”, “Tsukiage-do

24



25



(Overhang Window)” ,
 “Koushi-mado (Lattice Window)” という案内板を2階だけにでも設置することを提案する。“Sama (Loophole)” には “This was a device through which defenders could shoot arrows or

fire guns at enemies.” という説明を加えても良いかもしれない。尚、「狭間」も「石落し」と同様、外部からその存在がわかりにくいように設置されている。

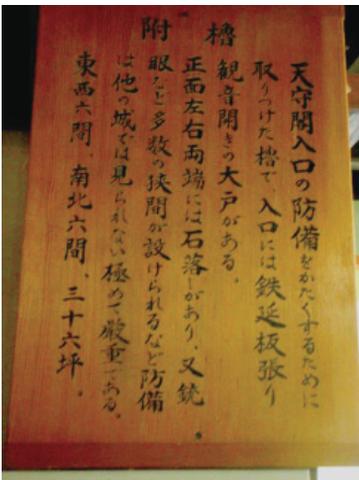
26



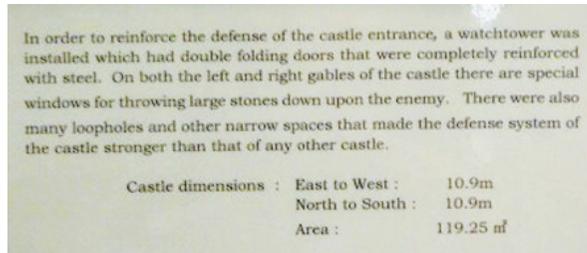
「附櫓（つけやぐら）」は松江城に現存する唯一の櫓であるが、26のように、天守正面に密着させて設置されている。天守の一部、とも言える。石垣に入口がみられ、入ったところは、「地階」と呼ばれ、籠城戦に備えて、井戸が掘られ、生活物資の保管場所とされていた、などが「地階」の案内板で説明されている。

27、28は「地階」内に存在する「附櫓」の日本語と英語の案内板である。それぞれ独立して存在する。英語のものは次の通りである。かなり問題点が存在する。アンダーラインは筆者による。

27



28



In order to reinforce the defense of the castle entrance, a watchtower was installed which had double folding doors that were completely reinforced with steel. On both the left and right gables of the castle there are special windows for throwing large stones down upon the enemy. There were also many loopholes and other narrow spaces that made the defense system of the castle stronger than that of any other castle.

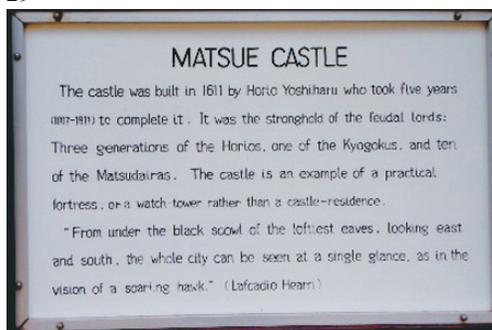
Castle dimensions :	East to West :	10.9m
	North to South :	10.9m
	Area :	119.25m ²

28にも“*Tsuke-yagura* (Attached Turret)”という表題を入れるべきであろう。27は、「天守入り口の防備をかたくするために附櫓が取り付けられた」の内容であるので、28は“In order to reinforce the defense of the entrance to the castle tower, the *Tsuke-yagura* (Attached Turret) was attached”とするべきであろう。「附櫓の左右に」の内容であるので、“On both the left and the right sides of the turret”とするべきである。“There were also …narrow spaces”について、「狭間」を「狭い空間」と誤解したのであろう、“narrow spaces”はとるべきである。また、前の文に時制を合わせ、この部分は“There are also *Sama* (Loopholes) and other devices…that make…”とするべきである。「天守の防備」の内容であるので、“the defense system of the castle”は“the defense system of the castle tower”とするべきである。まとめると、“There are also *Sama* (Loopholes) and other devices that make the defense system of the castle tower than that of any other castle/”とするべきである。「(城郭あるいは天守の)面積」ではなく、「(附櫓の)面積」であるので、“Castle Dimensions”ではなくて、単に“Dimensions”とするべきである。

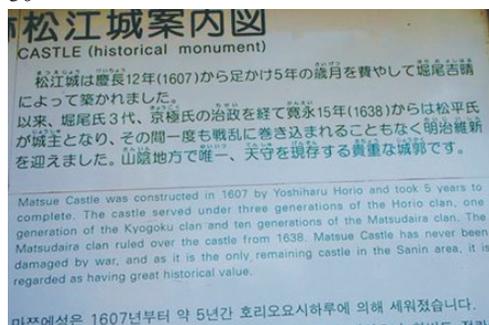
3.3.3 当該城郭特有な事物の案内板

29は発券所を入ったところ、30は登城口の売店近くに存在する。

29



30



29は、独立した英語の案内板であり、これに平行する日本語の案内板は付近に存在しない。アンダーラインは筆者による。

MATSUE CASTLE

The castle was built in 1611 By Horio Yoshiharu who took five years (1607-1611) to complete it. It was the stronghold of the feudal lords : Three generations of the Horios, one of the Kyogokus, and ten of the Matsudairas. The castle is an example of a practical fortress, or a watch-tower rather than a castle-residence.

“From under the black scowl of the loftiest eaves, looking east and south, the whole city can be seen at a single glance, as in the vision of a soaring hawk.” (Lafcadio Hearn)

29について、「もともとは隠居の城として建築に着手し、城の完成を見ないで堀尾義晴は死んだ。」ことが、宝島社編 (2009) など一般的に言われているので、“Horio Yoshiharu began to work on the construction of the castle in 1607, originally to make it a residence after his retirement. Yoshiharu died just before the castle was completed in 1611.” とすることを提案する。“Three…” はコロンのあとである

ので小文字で始めるべきである。“the Horios”などは、他の城郭の案内板にも見られるように、“the Horio clan”、“the Kyougoku clan”、“the Matsudaira clan”とすることを提案する。“a watch-tower…”はコンマをいれ、“a watch-tower, rather than a castle-residence.”とするべきである。

30の英語説明は次の通りである。29での筆者の提案と同じく、“the Horios”…とせず、“the Horio clan”としている。アンダーラインは筆者による。

MATSUE CASTLE (historical monument)

Matsue Castle was constructed in 1607 by Yoshiharu Horio and took 5 years to complete. The castle served under three generations of the Horio clan, one generation of the Kyogoku clan and ten generations of the matsudaira clan. The Matsudaira clan ruled over the castle from 1638. Matsue Castle has never been damaged by war, and as it is the only remaining castle in the Sanin area, it is regarded as having great historical value.

30について、英語説明の表題は“MATSUE CASTLE (historical monument)”としているが、「史跡」は一般的に“historical site”と言われるので、“MATSUE CASTLE (historical site)”とすることを提案する。第1文の“…to complete.”は、“…to complete it.”とすることを提案する。「もともとは隠居の城として建築に着手し、城の完成を見ないで堀尾義晴は死んだ。」であるので、29での提案に合わせて、“Horio Yoshiharu began to work on the construction of the castle in 1607, originally to make it a residence after his retirement. Yoshiharu died just before the castle was completed in 1611.”とすることを提案する。城郭全体ではなく、天守が山陰で現存する唯一のものなので、“…as it”を“…as its castle tower”とし、「山陰」を“San-in”とし、重要文化財に指定されていることを加え、これらの内容を独立させ、“…by war. As its castle tower is the only remaining one in the San-in area, it is regarded as having great historical value, and is designated as an important cultural asset.”とすることを提案する。

31

31は29と同様、発券所を入ったところに存在する。松江城の景観についてのLafcadio Hearnからの引用を挙げ、松江城から見た宍道湖や嫁が島について記述している。「小泉八雲は天守閣に登り落日に照らされた宍道湖や、湖面に浮かぶ嫁が島の優美さを賞でた。」これに対して、“Hearn often visited the castle, where he would sometimes climb to the top of the tower to enjoy the grand view, especially of the sunset on the lake.”と英語説明をしている。日本語説明は「落日に照らされた…」と文語調である。「学生と」も補って、次の英語説明を提案する。“Hearn often visited the castle, where he would sometimes climb up



to the top of the tower with his students to enjoy the grand view, of Lake Shinji-ko and a small island called Yome-ga-shima Island in the last rays of the setting sun.”

32は松江城天守1階の、現存天守唯一の「寄木柱」である。「寄木柱」の独立した案内板は存在しない。次の案内板を設置することを提案する。

32



寄木柱

松江城天守の柱は、寄木をして金輪でしばり強度を増しています。他に類を見ないと言えるでしょう。

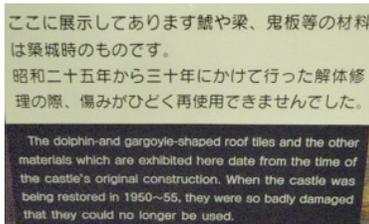
Yosegi-bashira (Joint Wooden Pillars)

The castle tower uses pillars in which lumber shafts are jointed together with clamps and bound round the outside with iron rings to increase the strength of the pillars. They are safely said to be a characteristic of the Matsue castle tower.

33



34



35

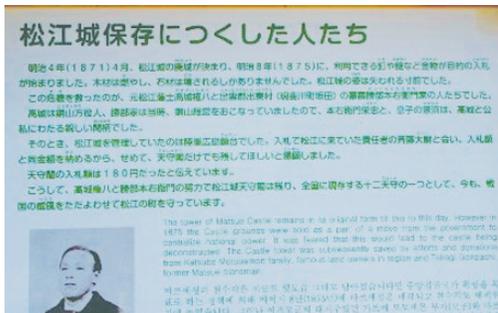


33,34 は「附櫓」の「地階」に存在する、「鯨（しゃち）」とその説明を含む案内板である。34に記述されている通り、35の現在の鯨は1950から1955年の天守の解体修理の折に新たに作られたものである。宝島社編（2009）は、元来松江城の鯨は2mを越えるもので、本城郭天守の特徴的なもの、としている。34の英語説明は次の通りである。アンダーラインは筆者による。

The dolphin-and gargoyle-shaped roof tiles and the other materials which are exhibited here date from the time of the castle's original construction. When the castle was being restored in 1950 ~ 55, they were so badly damaged that they could no longer be used.

最初の文は外国人観光客には理解しにくい。日本語説明と若干異なり、「鯨、鬼瓦、その他の資材」と思われる。“The *Shachi* (dolphins) and *Onigawara* (gargoyle-shaped roof tiles) , which are roof ornaments, and the other materials exhibited here date from” とすることを提案する。1950 ~ 55に「天守」が改修されていたので、“the castle” は “the castle tower” とするべきであろう。

36



36の英語説明の表題として、福島（2011）の松本城に準じ、“Men of Merit Worked for the Preservation of Matsue Castle” を加えることを提案する。

日本語説明には、元松江藩士高城権八（たかぎごんぱち）と出雲郡豪農藤部本衛門（かつべもとうえもん）が入札責任者の齊藤大尉に働きかけ、松江城天守を入手し、解体から救った旨が記されている。英語説明には齊藤大尉の名前は存在しない。英語説明は次の通りである。アンダーライン

は筆者による。

The tower of Matsue Castle remains in its original form till this to this day. However in 1875 the Castle grounds were sold as a part of a move from the government to centralize national power. It was feared that this would lead to the castle being deconstructed. The Castle tower was subsequently saved by efforts and donations from Katsube Motouemon family, famous land owners in region and Takagi Gonpachi, former Matsue clansman.

“remains in its original form till this to this day” の “till this” を削除し、“remains in its original form to this day” とするべきである。「郭」や「天守」は小文字で始め、“castle grounds”、“castle tower” とするべきである。“as a part of a move from the government to centralize national power” については、“… a move from…” を “…a move by…” とするか、あるいは、全体を “because the Meiji Government took action to strengthen its own power and take power away from the traditional local fiefs.” とする方が理解しやすいと思われる。「解体される」は “being deconstructed” より “being dismantled” とする方が一般的であろう。“Katsube Motouemon family, famous land owners in region” は、定冠詞と関係詞を補い、“the Katsube Motouemon family, who were famous land owners in the region” とするべきであろう。“former Matsue clansman” は、不定冠詞を補い、“a former Matsue clansman” とするべきである。

4. おわりに

本稿をもって、国宝、重要文化財に指定されている天守を有する 12 城郭の英語案内板の検討は完了する。

これまで通り、「城郭の一般的事物の案内板」の用語については、現地の案内板のものを生かす方針で加筆修正をおこなった。例えば、「天守」については、城郭の中に複数存在する場合当該城郭の「天守」は、一番多く使用されているものへの統一を試みた。ただし、市川（1989）、渡辺（2003）などに記述されているものを「一般的に使用されているもの」とし、このどれかが当該城郭に存在する場合、その用語に統一を試みた。存在しない場合は、「一般的に使用されているもの」を使用した。従って、同一稿においても、城郭により「天守」の用語が異なり得る。

また、「狭間」や「櫓」は、イタリック体を用い “Sama”、“Yagura” と表記することを提案してきた。そして、それぞれに “(turret)” や “(loophole)” または “(porthole)” の如く英語説明を加えてきた。

日本語の名詞の英文字表記について、平仮名にしたものをローマ字化し、そのまま表記することを提案してきた。例えば、人名である「加藤嘉明」の「加藤」を “Kato” と綴ると、「カト」と発音される可能性がある。“Katou” とすることを提案してきた。また、地名の「高知」を “Kochi” と綴ると、「コチ」と発音される可能性がある。“Kouchi” とすることを提案してきた。

案内板の人名の語順については、英文中に欧米人名が存在しない限り、日本語通り、「姓・名」の順に記すことが適当と思われる。日本では、「姓・名」、欧米では、「名・姓」であることが国際的に周知のことである。例えば、「柴田勝豊」は “Shibata Katsutoyo” としてきた。

地名人名についてもイタリック体にするべきかどうかは、今後の検討課題である。

最後に、筆者はこれまでの稿にも記述してきたが、重要文化財も国宝と同様、その維持管理には国が費用の一部を負担している。また、日本政府が外国からの観光客誘致を重視しており、英語が「国

際語」になっており、また、特にオリンピックが東京で開催されることになった現在、日本の名所・旧跡を訪れる外国人観光客の増加が見込まれ、現地の英語案内板については、質的、量的にもこれまで以上に充実させる必要があるだろう。本稿においても、このことを強調する。

註

- 1) 宇和島城、伊予松山城の案内板を含む画像は、2011年8月、松江城の画像は、2011年9月のものである。
- 2) 氏は、宝塚大学で教鞭をとり、『サラ川グリッシュ』（講談社、2008）、「英語で味わう日本の文学」（東京堂、2010）などの執筆に関わっている。
- 3) 丸岡城天守は、1576年柴田勝豊が建設したものがそのまま現存しているので、“the eleven Japanese castles”「11の日本の城」とするべきである。
- 4) 『司馬遼太郎と城を歩く』製作委員会（2008）の「島原城」によれば、破風は装飾的なものとしている。
- 5) 宝島社編（2009）による。

参考文献

- Collick R.M.V、日南田一男、田辺宗一編（1995）『新和英中辞典』第4版、東京：研究社
- 福島一人（2011.1）「観光英語（1）：「国宝天守をもつ松本城の案内板の英語」『情報研究』第44号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2011.7）「観光英語（2）：「国宝天守をもつ、松本城案内板の英語と比較した姫路城、彦根城、犬山城の案内板の英語」『情報研究』第45号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2012.7）「観光英語（3）：「重要文化財の天守を有する備中松山城、丸亀城、高知城、弘前城の案内板の英語」『情報研究』第47号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2013.1）『観光英語（4）：「重要文化財の天守を有する丸岡城の案内板の英語」『情報研究』第48号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- 花本金吾、野村恵造他編（2003）『旺文社レクシス英和辞典』、東京：旺文社
- 市川繁治郎（1989）『新和英中辞典』第3版、東京：研究社
- 市川繁治郎他編（福島一人他執筆）（1995）『新編英和活用大辞典』、東京：研究社
- インターナショナル・インターンシップ・プログラムズ（2008）『日本まるごと事典』第2版、東京：講談社インターナショナル
- 石井隆之（2009）『日本の都道府県の知識と英語を身につける』、東京：ベレ書房
- キノシタ・ジュン、バレフスキー・ニコラス（2004）『最新改訂版 日本旅行ガイド』、東京：講談社
- 小西友七、南出康也編（2007）『ジーニアス英和辞典』第4版、東京：大修館
- ライシャワー・エドウィン、加藤一郎他監修（1993）『カラーペディア 英文日本大事典』、東京：講談社
- 『司馬遼太郎と城を歩く』製作委員会（2008）『司馬遼太郎と城を歩く [NHK DVD]』、東京：NHK エンタープライズ

篠田義明（1989）『アメリカ英語最新ビジュアル辞典』、東京：研究社

宝島社編（2009）『日本の名城現存十二天守 [DVD-BOX]』、東京：宝島社

植田一三、植田敏子（2009）『英語で説明する日本の文化』、東京：語研

渡邊敏郎他編（2003）『新和英大辞典』第5版、東京：研究社

Wikipedia, the free encyclopedia. “Matsue Castle.” Retrieved September 20, 2013, from <http://en.wikipedia.org/wiki/Main-Page>

_____. “Matsuyama Castle.” Retrieved May 28, 2013, from <http://en.wikipedia.org/wiki/Main-Page>

_____. “Uwajima Castle.” Retrieved May 28, 2013, from <http://en.wikipedia.org/wiki/Main-Page>